

2010 年度受託研究概要報告

産学連携による『ものづくり』支援事業

「多可ひのき木綿」を中心とした地元産品の商品開発、及び販路開拓研究その②

研究メンバー

- 野口正孝 デザイン学部ファッションデザイン学科教授  
 瀬能徹 デザイン学部ファッションデザイン学科准教授  
 安森弘昌 先端芸術学部クラフト・美術学科准教授

委託者

多可町商工会

研究概要

本学と多可町商工会に所属する中小零細企業が連携して、地域資源を活用した地元産品や事業所オリジナル商品の開発、さらには販路開拓の研究と実践を行う。

- ・「多可ひのき木綿」を使用した商品サンプルの製作とテスト販売、市場調査を行う。
- ・「多可ひのき木綿」を使用した商品群のブランディング研究とデザイン制作を行う。
- ・販路開拓の研究、研修会等を実施する。
- ・展示会への出展等による商品 PR に関する研究を行う。



写真1 多可ひのき木綿トートバック



写真2 ふれっしゅめぐり館展示風景

研究成果

- ・前年度に開発した「多可ひのき木綿糸」にヒノキの混率を高める改良を行い、7 番単糸と 20 番単糸の「多可ひのき木綿糸」の紡績を行った。
- ・「多可ひのき木綿糸」を用いて「檜皮帆布」を 2 柄、ひのき三重織ガーゼ「やたら織」、二重織ガーゼ「滝縞」の織り柄をデザインし、「多可ひのき木綿」の織布を行った。
- ・新しい「多可ひのき木綿」に 200 ～2009 年度に織布した「ひのきダンガリー」「檜皮縞ダンガリー」「ヒノキ木綿ドンゴロス」を加え、トートバック 4 型、ポーチ 5 型、クッション 3 型、タオルハンカチ、シャツ 3 型、ランチョンマット、鍋敷き、ミトン、エプロンの見本制作を行った。
- ・「ふれっしゅめぐり館（兵庫県多可郡多可町加美区門村 546-4）」をアンテナショップとして製品のテスト販売をするため、上記の「多可ひのき木綿」製品の生産を行った。
- ・同様にテスト販売を行うために、ひのきの木工製品としてスツール、五角ひのき箸、箸置き、プレート、ふきん掛けの製品の生産を行った。
- ・アンテナショップの店舗設計を行い、「多可ひのき木綿」のブランディングの一環として、織りネーム、下げ札、展示パネルの制作を行った。



写真3 多可ひのき木綿カタログ